

長岡まちづくり懇談会の提言に対する対応状況

令和4年7月8日開催

- No. 1 **公園砂場の整備について**
建設課
- No. 2 **町内に捨てられている家電及びゴミについて**
生活環境課
- No. 3 **市広報誌のペーパーレス化について**
市長公室
- No. 4 **長岡地域の人口推計について**
市長公室、学校教育課
- No. 5 **起立性調節障害と不登校について**
学校教育課
- No. 6 **中学校の冬期通学におけるスクールバス運用について**
教育総務課、学校教育課

長岡まちづくり懇談会の提言に対する対応状況

令和4年7月8日開催

No.	1	標 題	公園砂場の整備について
所管課等		建設課	
<p>《市民のこえ》</p> <p>子ども達は砂場遊びが大好きで、砂場は、時間が経つのも忘れていつまでも遊んでいなくなる場所です。情操教育の面からも、砂遊びや泥んこ遊びは、大変必要だと思います。</p> <p>砂場の砂が減っている公園（東長岡、和久井、辻の前公園など）があるので、砂の補充と砂場の定期的なメンテナンスをよろしくお願いします。</p>			
<p>＜回答及び対応状況＞</p> <p>御提言の公園については、7月11日に砂の補充を完了しています。</p> <p>公園の維持管理においては、公園維持管理協力員に要望調査を行うなどして、よりよい公園になるように努めているところです。地域の御要望がありましたら、協力員や市に御連絡くださるようお願いいたします。</p>			

No.	2	標 題	町内に捨てられている家電及びゴミについて
所管課等		生活環境課	
<p>《市民のこえ》</p> <p>中里町内にある水路に、テレビと鉄くずが捨てられており困っています。撤去するには、どうしたらいいのでしょうか。</p>			
<p>＜回答及び対応状況＞</p> <p>今回御指摘いただいた水路への不法投棄を確認したところ、天童土地改良区で管理している水路であったため、6月24日に管理者で回収処分していただきました。</p> <p>今後とも、不法投棄を見つけた場合には、市へ御連絡いただければ、土地の所有者・管理者の責任のもと、回収処分などの対応させていただきますので、よろしくお願い致します。</p>			

No.	3	標 題	市広報誌のペーパーレス化について
所管課等		市長公室	
<p>《市民のこえ》</p> <p>現在、「市報てんどう」は、各戸に紙で配布していますが、市のホームページに掲載されている市報データを、各住民が閲覧またはダウンロードなどにより、活用してもらおうようにしたらどうでしょうか。市のペーパーレス化は、確実に図れると思います。</p>			
<p>＜回答及び対応状況＞</p> <p>市報てんどうは、囑託員や隣組長の御協力により、市内の全世帯に月2回配布し</p>			

長岡まちづくり懇談会の提言に対する対応状況

令和4年7月8日開催

ています。加えて、市ホームページにPDFデータを掲載し、パソコンやスマートフォンなどからも閲覧できるようにしており、今後はLINEなどの活用も考えています。

市報てんどうの配布については、市民の皆さんにお届けしたい情報を確実にお届けするためには、現在のところ紙で配布する方法が最適であると考えています。

デジタルが苦手な方への配慮なども含めまして、今後とも、紙とデジタルの併用で行政情報をお届けしたいと考えていますので、御理解をお願いします。

No.	4	標 題	長岡地域の人口推計について
所管課等		市長公室、学校教育課	
<p>《市民のこえ》</p> <p>少子高齢化時代の中で、天童市も長岡地域も人口減少が大きな課題となっています。小学校の統合などを考えなければいけない時期が来るかもしれません。</p> <p>現時点での人口推計や小学校児童数の予測を基に、将来の長岡地域のまちづくりを戦略的に考えるべきだと思います。目標を明確にし、予算を効果的に使い、若者が集まる住み続けたい地域にしていきたいと考えますが、市の考えはいかがでしょうか。</p>			
<p>＜回答及び対応状況＞</p> <p>人口減少は、大きな課題であり、日本全体の課題として深刻に受け止めています。その中で、市で対応すべきとことを明確にして取り組んでいかなければならないと考えています。</p> <p>特に、若者が、進学などで天童市を離れたあとも「天童市に戻って暮らしたい」「戻っても安心して暮らせる」と思えるような対策をしっかりと講じていく必要があると考えています。</p> <p>そのため、令和3年3月に、天童市まち・ひと・しごと創生総合戦略を第七次天童市総合計画後期計画と兼ねて策定し、目指すべき市の将来像を示しています。</p> <p>この計画では、この度提言をいただいたような、「若者が集まる、住み続けたい」まちを目指すことを掲げており、特に若者層や女性にとって魅力的なしごとの場を創っていくこと、そして「住んでみたい」と感じるブランド力のあるまちづくりを目標の一つとしています。</p> <p>また、長岡小学校の児童数は、令和4年5月1日現在で345人であり、通常学級は12学級です。児童数は年々減少している状況ですが、現時点では、学校の統廃合は考えていません。中長期的な児童生徒数を予測しながら総合的な判断を行っていきたいと考えています。</p> <p>市としては天童市全体で将来のまちづくりを計画していますが、それぞれの地域のまちづくりにおいては、ぜひ地域の皆さんで話し合っただきたいと考えます。その際に市職員の協力が必要な場合は、御相談くださいますようお願いいたします。</p>			

No.	5	標 題	起立性調節障害と不登校について
-----	---	--------	-----------------

長岡まちづくり懇談会の提言に対する対応状況

令和4年7月8日開催

所管課等	学校教育課
<p>《市民のこえ》</p> <p>起立性調節障害は、今や10代の10人に1人が発症すると言われ、小学生で5パーセント、中学生では10パーセント発症すると言われています。</p> <p>現在、天童市では、小中学校の発症状況はどうなっているのでしょうか。また、その中でも不登校生徒において、どの程度発症しているのでしょうか。</p> <p>起立性調節障害は、夜になると活発になることなどから、怠けなどと誤解されることもあります。10年前は、なかなか理解してくれる先生方は少なかったのですが、ここ最近では、どの程度の理解が進んでいるのでしょうか。</p> <p>また、起立性調節障害の生徒を受け入れる体制はどのように整備されているのでしょうか。高校であれば、通信制や定時制という選択もあるかもしれませんが、小中学校ではそうはいかないため早急な対応が必要と考えます。</p>	
<p>＜回答及び対応状況＞</p> <p>起立性調節障害の診断を受けている本市児童生徒数については、正確に把握していませんが、昨年度不登校となった児童生徒に限っては、小学生の8.3パーセント、中学生の9.7パーセントが診断を受けています。</p> <p>本市では、大学教授を中心とした特別支援教育専門家チームが、年1～2回各校を巡回し、発達障害に係る児童生徒のスクリーニングや必要な支援についての助言を行っており、起立性調節障害の理解と対応についても研修を行っていただいています。</p> <p>また、市内各中学校への調査結果から、不登校の要因については、「無気力、不安」「親子の関わり方」「生活リズムの乱れ」等、多様な要素が複雑に絡み合うことが多いため、起立性調節障害のみならず、児童生徒が抱える様々な背景をもとに支援の方針を探っていく必要があると考えています。</p> <p>市教育委員会としては、今後とも家庭や医療機関等との連携を丁寧に進め、共通理解を図りながら適切な支援を行い、児童生徒の社会的自立へ向けた支援の充実に努めていきます。</p>	

No.	6	標 題	中学校の冬期通学におけるスクールバス運用について
所管課等		学校教育課、教育総務課	
<p>《市民のこえ》</p> <p>長岡地域から通う中学生たちは、春から秋は自転車通学が可能ですが、12月から3月までの冬期は徒歩通学となり、早朝と夕方の暗い中、1時間以上かけて通学しています。</p> <p>部活動のある日の下校については、午後7時を過ぎる場合もあり、防犯の観点から課題があり、また、毎日往復2時間以上も通学に時間を取られることで、生活リズムや家庭学習への影響が懸念されます。</p> <p>文部科学省の方針でも、通学時間はおおむね1時間以内を目安にすると示されており、子どもたちの健全な生活環境実現のためにも冬期間のスクールバス運行をぜひ検討していただきたいです。</p>			

長岡まちづくり懇談会の提言に対する対応状況

令和4年7月8日開催

<回答及び対応状況>

国で示している中学校の通学距離については、おおむね6キロメートル以内かつ1時間以内を目安と示しており、市内の中学校は、自宅から学校までの距離がおおむね6キロメートル以内に設置されています。また、冬期間の徒歩通学にかかる時間は、長くても1時間程度と考えておりますが、天候によっては、時間を要する場合があります。

このような状況から、保護者の送迎等による通学も一律に禁止とはせず柔軟に対応するとともに、冬期間はすべての部活動終了時刻を午後5時15分とし、生徒が早めに下校できるように工夫しています。

現在のところ、スクールバスの運行は考えていませんが、生徒の冬期間の通学について、個々の様々な状況を考慮し、よりよい登下校のあり方を探っていきたいと考えています。